

CS こひつじ科礼拝式次第

2022年3月13日 午前9時30分

2022年度年間テーマ：「イエス様の祈り『主の祈り』によって、祈ることを身につけよう」

テーマ曲：ワワワいっしょに（92番）

暗唱聖句：「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」

ヘブライ人への手紙11章1節

40、かみよ このひ（こどもさんびかをお用いください）

おいのり 礼拝に招かれたことを感謝しましょう

せいしよ コリントの信徒への手紙二1章20節

神の約束は、ことごとくこの方において「然り」となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して「アーメン」と唱えます。

おはなしとおいのり 「アーメン ほんとうにそのとおり」 門脇献一校長

みなさんおはようございます。

3月11日は何の日か知っていますか？それは東日本大震災が起きた日です。今から11年前の2011年3月11日に東北地方の太平洋側を中心に起きた大地震と大津波によって、大きな被害が起き、たくさんの方がなくなられました。今でもその時の被害や心に負った傷から回復していない方々もいらっしゃいます。どうか皆さんも3月11日の大震災を覚えて、被害に遭われた方々の回復のためにお祈りしてくださいね。

さて、「地に足をつける」ということばがありますが、私たちが立っている地面はどっしりと動かないものと思いがちです。そんなものでもあんなに激しく揺り動かされることがあるということを私たちは体験させられましたね。いったい私たちは何に足をつければ安心なのでしょう。それは神さまが私たちにしてくださった救いの約束です。きょうのみことばはこのことをいっています。神の約束は、この方において「然り（しかり）」となったのです。この方とはイエス様のことです。「然り（しかり）」となったとはイエス様が神さま救いの約束を果たしてくださったということです。

この世界がどのような有様（ありさま）であってもわたしたちはこの救いの約束に支えられます。「然り（しかり）」という言葉はじつは「アーメン」という言葉です。この言葉は「本当にそのとおり」という意味です。

今世界では、大きな戦争が起こっています。そう、ウクライナですね。ウクライナの人々はそれまで当たり前のように送っていた日常生活を奪われ、多くの困難と危険にあわされています。普段の穏やかな生活が当たり前のように続くと私たちは考えていますが、ウクライナの人たちも少し前までは同じように考えていたのではないのでしょうか。それでも、世界がどのような有様（ありさま）でも、神様の救いの約束は確か、「アーメン」なのです。

主の祈りの最後に、また私たちのお祈りの最後に私たちは声を合わせて「アーメン」と唱えます。このとき、イエス様が神さまの救いの約束を確かにはたして下さったことを覚えましょう。そうして、イエス様によって、何よりも確かに約束を果たして下さった神様が私たちの祈りを聞いてくださる事をおぼえましょう。

おいのり

かみさま わたしたちは今年も3月11日を迎えました。どっしりと動かないと思っていた大地が激しく揺れることを知らされました。ウクライナではつい最近まで穏やかに暮らしていた人々が命の危険にさらされる状態となっております。世界がこのような有様でも、イエス様によって果たして下さった神様の救いの約束は何よりも確かなものであることをしっかりと覚えさせてください。どうか震災の被害から回復されていない方に必要な助けを、ウクライナで命の危険にさらされている方々に、必要な食べ物や飲み物や安全や安心、慰めを神さまどうかお与えください。

* 小さなお子さまには、話の内容等をわかりやすく、年齢に合わせて噛み砕いてお話くださいますようお願い致します。

(けんきん) 会堂2階掲示板下の机に献金箱を設置しました。

おいでの際におささげください。

58、アーメンハレルヤ (こどもさんびかをお用ください)